



県立土浦産業技術専門学院の連携で労働力確保を目的とした活用について



竹内 裕 議員

△質問▽
土浦産業技術学院について、平成三年に質問した当時は、「市の広報紙において、単なるお知らせ記事ではないPRも考えていく。若者に対して職業を与える場所として、すばらしい成績を取っており、市としても十分連携をとり、若年層の就労の場確保に向けやっつけていきたい」との答弁であった。その後具体的にどういう成果を上げているか、どのように進めているか伺う。

△産業部長▽
土浦産業技術学院は職業に必要な能力の開発、向上の支援等を行い、職業の安定と地位の向上を図るとともに、産業界の振興に寄与することを目的に設置され、県内に優秀な技術労働者を多数供給している。主な事業内容は、新規学卒者訓練、離転職者訓練、在職者訓練、或いは、地域・

企業が行う教育訓練への相談・助言などの職業開発援助事業等を実施し、就職率はほぼ百パーセントである。前回の答弁後の対策としては、広報つちうらへの学院生募集・講座のお知らせ等を継続して実施するとともに、ハローワーク・

商工会議所などで組織している茨城県南地域求職活動援助推進会議、土浦地区雇用対策協議会等の席上で学院に関する情報の提供を行っており、今後においても、学院との連携強化を図りながら、一層の周知啓発に努めてまいりたい。
(掲載以外の質問事項)
一 新合併特例法に基づく土浦市の合併構想について
二 産廃不法投棄や無許可埋め立てなどの状況と対策について



茨城県立土浦産業技術専門学院

戦争をどう語り継ぐか



福田 一夫 議員

△質問▽
太平洋戦争後六十年を経て、先生方も戦後世代となった。子どもたちに太平洋戦争、その結果を知識として身に付けさせなければならぬと考える。戦争を知らない世代が戦争を知らない子どもたちに戦争をどう教え、どう語り継ぐべきか、考えを伺う。また、市民の戦争体験を語り継ぐために何か形のあるものはできないか伺う。

△市長▽
本市では、昭和六十三年に非核平和都市を宣言し、非核平和パネル展の開催や、毎年広島市で行われる平和祈念式典に平和使節団の派遣などの平和事業に取り組みながら、広く市民の皆様が平和の尊さを訴え、悲惨な戦争の記憶を風化させないための一助にできればと考えている。
△教育長▽

社会科では、子どもたちの身近な地域の方を講師に迎え、戦争中の生活体験などのお話を聞く機会を、昨年度は六つの小学校で設けている。国語科教材の中には、戦争をテーマとした題材が小学校四年、六年と中学校の各学年に組み込まれている。

(掲載以外の質問事項)
二 合併後の市のあり方について
上・下水道の整備現況と整備計画について



矢口 清 議員

△質問▽
本市における下水道事業は、昭和四十一年に中心市街地から整備が開始されたと聞いているが、未だに下水道の使用見通しのない地区もあり、地区間の格差が顕在している。すべての国民が文化的な生活を営む上で、必要不可欠な社会資本である。そこで、本市における上・下水道整備現況と未整備地区の整備計画につ

いて伺う。
△水道部長▽
上水道の普及率は、平成十七年度末で、人口普及率で九十二パーセントであり、配水管の整備については、土浦地区の市街化調整区域の一部を除き、ほぼ全域に普及している。給水整備計画については、給水要望者に対し給水時期の意向を確認し、直ぐに接続可能な管路や、安心・安全な水を安定的に供給するための相互連絡管路などを重点的に整備してまいりたい。
△建設部長▽
下水道の整備状況は、平成十七年度末で、土浦地区が約七十三パーセント、新治地区で約八十八パーセント、両地区合わせると、約七十四パーセントとなっている。整備計画については、①一人当たりにかかる事業費などの費用対効果、②区域内における公共機関の有無、③工事の容易性、④水洗化利用の促進、などの観点から、需要効果等を精査し、国庫補助金などの財源確保に努めながら、工事費などのコスト削減を図り、年次計画により積極的に整備を進めてまいりたい。